

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和5年(2023年)

4-5月号

(通巻 205号)

2023年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

クサボケ

明るい雑木林がなくなり、クサボケも珍しくなりました。誰かが汗して作業しなければ、林は守れません。

P1 🌻 いきもの写真館
クサボケ

P2 🌻 外来生物に関してー1
/ 帰化植物の時代
3

P4 🌻 センサーカメラとっておきをご紹介
クロツグミ

P5 🌻 長田谷津のとりたち
オオタカ

P6 🌻 くすのきのあるバス通りから
春のスケッチ

P6 🌻 展示室 飼育生物の話題
カワニナの餌

P7 🌻 わたしの観察ノート
1～2月の記録

P8 🌻 ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。

帰化植物の時代

令和5年度は、外来生物について取り上げます。市川市域は東京23区に隣接する「超都会」なので、自然を見る視点に必ず都市化という要素が加わります。都市内の自然では、外来生物は「居て当然」の存在です。ただ、その解釈は時代により、立場により異なっています。

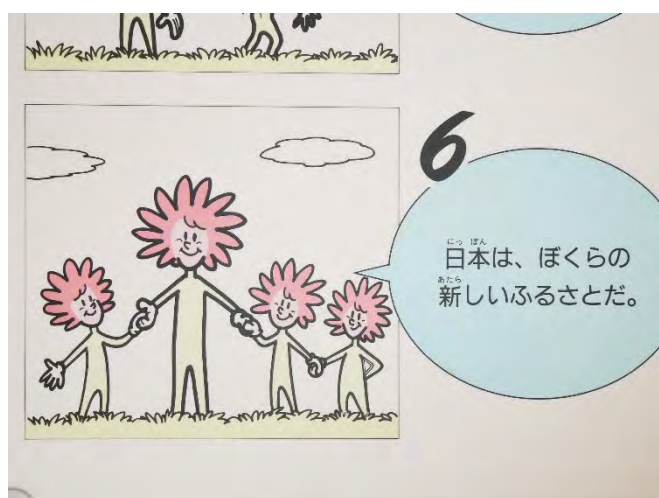
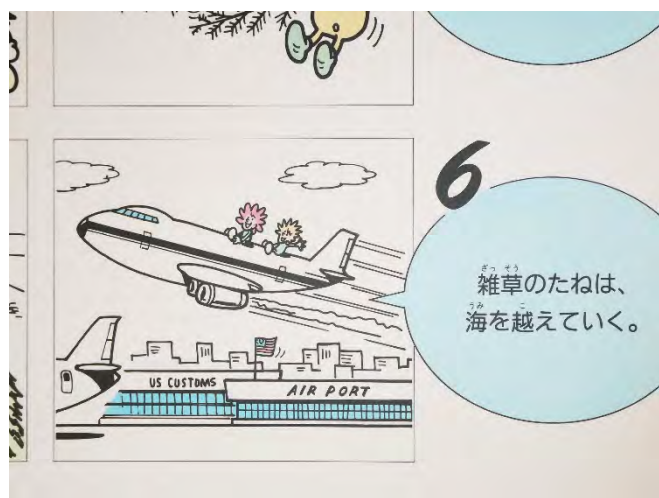
「帰化植物」という呼び方

当館が開館した平成元年（1989年）のころは「外来種」「外来生物」という言葉は一般的ではなく、「帰化植物」「帰化動物」「帰化生物」という言葉が使われていました。特に帰化植物という言葉は、多くの人が知っている言葉でした。

当館の展示室には「都市化した市川の自然」というくくりで「帰化植物」や「都市鳥」を扱う展示があります。帰化植物のコーナーでは、植物が海外から国内に入る仕組みを2枚の漫画のパネルで紹介しています。紙面の都合でパネルのすべては掲載で

きませんが、それぞれの最後のコマ、つまり結論の部分を下枠内に引用しました。特徴的なのは、帰化植物を、あるいは帰化という現象を好意的にとらえているということです。

2枚のパネルのうち、最初のパネルは人間の生活圏にある植物が物流に乗りやすく、海外へ移動するという内容です。ジャンボ機にまたがった植物クンたちに後ろ暗さはありません。2枚目のパネルは、異国の地にたどり着いたものの、気候などに適応して住み着けるのは一部に過ぎないという内容です。無事、定着した植物クン



当館の展示室にある、帰化のしくみを説明した漫画のパネルの最後のコマ。外国語＝英語、外国人＝アメリカ人、1ドル＝360円という時代を実体験した人がまだ主役でいた時代です。いまの基準で見れば突っ込みどころ満載と思いますが、そこはご容赦ください。

たちの笑顔が印象的です。「外来」ではなく「帰化」という言葉が使われていることから、海外から来た植物を肯定的に受け入れていることがわかります。

ただ、例外もあります。セイタカアワダチソウです。昭和40年代あるいは1960年代の「高度経済成長」の時代に全国で大規模に行われた宅地造成にともなって分布を広げたセイタカアワダチソウは、黄色い花の大群落になることや、花粉症の原因という濡れ衣を着せられたこともあり、駆除が社会的な現象になりました。根絶できずにいまに至っていますが、地域の集団をひとまとめにするスローガンとしては絶好でした。各地で撲滅運動が繰り広げられました。

帰化センター

当館の帰化植物のコーナーには、別の展示もあります。市内にあった毛織工場に輸入された羊毛の原毛に、原産地由来の植物のタネが混じってきたという内容です。展示パネルでは「種子の遠い旅」と表現しています。毛織工場の敷地には見慣れない外国の植物が多く生えるため、当時の植物の愛好家や研究者には注目のスポットになっていました。羊毛についてきた植物の多くは工場外には広がらなかったため、その場所でしか見られない、という希少性もありました。こういう帰化植物の拠点を帰化センターと呼んでいました。

このコーナーでは、県内にあった三里塚御料牧場についても触れています。御料牧場もよく知られた帰化センターでしたが、当館では唯一、市外のことを扱う展示です。これは、開館に携わった専門家がどこかに記録としてとどめておきたい、と希望したことが背景にあります。確かにいまとなっ

ては、この展示ぐらいでしか話題にも上らないでしょう。ワルナスビという植物が、県内では御料牧場から広がったことも紹介されています。

下の写真は、毛織工場が保管していたもので、当館の展示のために寄贈して下さった品々です。羊毛の原毛には、タネだけでなく、こういった物も混じっていたという内容です。だから、タネが入ってきたって不思議じゃないよね、という文脈です。やはり、受け止め方は肯定的です。



帰化植物の時代を思い返すと、戦後の混乱期を生き延びた後の、学びに対するほとばしる思いと喜び、熱気が感じられます。



センサーカメラ

とっておきをご紹介

自然博物館では、長田谷津(大町公園自然観察園)の斜面林内にセンサーカメラ(自動撮影装置)を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。



クロツグミ

これまでの4年間で、たった一度しか映らなかった種類があります。クロツグミもそのひとつです。腹部があまりはっきり映らなかったので、朝夕の時間帯で白黒画像だったら、判断に迷ったかもしれません。撮影日は2019年4月23日です。渡りの時期に、ある年は長田谷津を通り、ある年は通らないということでしょう。長田谷津と周囲の梨園、いくつかの林は、一体化してひろがりのある緑を形成しています。また別の渡り鳥が、突然、映ることもあるのでしょう。

長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている長田谷津の鳥類調査の記録から
オススメのとりたちをエピソードと共に紹介します

長田谷津のオオタカ

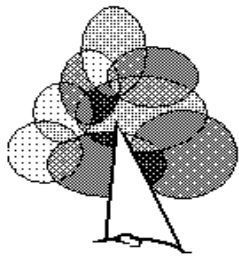
オオタカは長田谷津の生態系の頂点に君臨する猛禽類です。町中でよく見るハシブトガラスほどの大きさと、主に鳥を捕食します。長田谷津では 1990 年から記録され、現在も年間を通して観察することができます。観察するのは比較的難しく、斜面林の中から声だけ聞こえたり、谷の間を素早く横切ったりと、姿を見るのは簡単ではありません。長田谷津のオオタカを観察するコツは、ハシブトガラスの動きに注目することです。天敵であるオオタカを見つけたカラスは、オオタカを追い払おうと集団で追いかけます。カラスが騒ぎ出したら、近くにオオタカがいるかもしれません。

オシドリを捕らえたオオタカ

今年の 1 月の出来事です。鳥類のラインセンサス調査を行っていると、オオタカの「ケッケッケッ」という鳴き声が聞こえてきました。鳴き声のする方向を見ると、大きな桜の木の上にいるオオタカを見つけました。オオタカは食事中的のよう、大きな獲物を持っています。脅かさないように、双眼鏡を覗くと、獲物はなんと、オシドリのメスでした。なんとか記録に残さねばと、持っていたビデオカメラに手を伸ばし、映像に残すことができました。撮影場所から 50m ほどの三角池の横にオシドリの羽が散乱していたので、おそらく三角池でオシドリを捕らえたのだらうと推測できます。オシドリは長田谷津では非常に珍しい鳥で、最後に学芸員が記録したのは 2009 年です。珍しく飛来したオシドリがオオタカの獲物になったようです。オシドリを捕食するオオタカの映像は博物館のホームページから、オリジナル動画「2023 年 1 月のスケッチ」にて見ることができますので、是非ご覧ください。



オシドリを捕食するオオタカ（2023 年 1 月 18 日 長田谷津）



春のスケッチ

3月8日から10日まで気温が20℃以上で暖かく、北方で8日に、八幡で11日にウグイスが鳴きました。庭ではカナヘビ、ダンゴムシ、アリ大・小2種が見られ、近所のカンヒザクラも咲きました。

あちこちに植えられたカワヅザクラが大きくなり、濃い色のたくさんの花で早春が華やかになり、例年のカンヒザクラから始まりヤマザクラ、ソメイヨシノ、ウコン、ヤエザクラという順番が「あれ？早い？遅い？」と違和感があります。

12日の早朝、京成八幡の辺りでイソヒヨドリが鳴いていました。

13日雨が降り、八幡6丁目のバス停の側の池があった場所に、カエルが集合していました。駐車スペースになってしまいましたが、隣の草が生えている庭に産卵するつもりのようです。

23日久しぶりに葛飾八幡の境内を通ると、大きなクスノキが根元から切られていました。街なかの木が少なくなるのは残念です。

28日鬼越商店街のテントのひさしの中へ、ツバメが入っていくのを見ました。

(M. M.)

No.48

展示室 飼育生物の話題

カワニナの餌

カワニナとマルタニシの飼育ケースでは、長く餌に困っていました。枯れたコナラの葉などを入れるものの、思うように食べてくれません。あるとき、ダンゴムシの餌に使っているホオノキの枯れ葉を入れてみたらバッチリでした。特にカワニナは好むようで、10日くらいで見事な葉脈標本になってしまいます。

ホオノキは市川市域には自生しませんが、長田谷津には2本あります。白くなった大きな落ち葉を時間があるときに拾っておきます。ちなみにダンゴムシも本当によく食べます。ダンゴムシに触れる展示も人気なので、ホオノキで、ずいぶん助かっています。



大きなホオノキの葉が、葉脈だけ残して見事に食べつくされてしまった。



◆長田谷津より

- ・大町門から入ってすぐの池の淵に水が沸いている場所があり、ツグミやヒヨドリがひっきりなしに現れて水浴びをしていました(1/6)。水浴びにくる鳥をビデオカメラで撮影していると、藪の中からヤマシギがひょっこりと現れました。地面に嘴を突き刺しながら、餌を探しているようでした。

稲村優一(自然博物館)

- ・三角池上空をノスリがゆっくりと飛びました(1/20)。最初に見たときは、近くのオオタカが反応していました。2回目は、ヒヨドリが追い、遅れてカラスが追いました。

金子謙一(自然博物館)

- ・斜面林からエナガのけたたましい鳴き声が聞こえてきました。上空にタカがいるときに聞く声なので、見上げると、案の定ハイタカが飛んでいました。エナガにとっては天敵ですね。今シーズンは、よくハイタカを見かけます。

稲村優一

- ・長田谷津ではオオタカの声をよく聞きます。この日は、斜面林の樹冠や林内を飛ぶ姿が見られました(2/7)。体や翼の下部は真っ白に見えました。

金子謙一

- ・オオタカの鳴き真似をしながら、カケスが斜面林を移動していました(2/23)。4羽ほどの群れでした。

稲村優一

- ・春の日差しを受けて、ルリタテハが元気に飛び回っていました(2/28)。オオイヌノフグリもそうですが、見るだけでうれしくなる青色です。

金子謙一

◆大町より

- ・動物園のザリガニ釣り場にある滝が、鳥たちの良い水浴び場になっています(1/13)。キジバトやヒヨドリ、シロハラ、シジュウカラ、メジロが集まっていました。

稲村優一

◆大野町より

- ・大柏川沿いの水路からタシギが飛び立ちました(1/13)。一度、写真に撮りたいな、と思うのですが、こちらが先に気づいたことは過去一度もありません。

◆鬼高より

- ・小学生の小さな小さな畑は、柔らかな土のおかげなのか、春の野草がよく育っていました(2/17)。オオイヌノフグリが咲き、カラスノエンドウの葉が一面に茂っていました。葉の間には、ナナホシテントウが姿を見せていました。

◆中山より

- ・センダンの実にヒヨドリが来ていました(2/3)。人が近づくと少し離れた場所に移動し、いなくなると、戻ってきて食べていました。

以上 金子謙一

◆三番瀬より

- ・冬の東京湾の風物詩のスズガモが、三番瀬の沖に群れていました(1/4)。数百羽の群れで、遠くから見ていると、島のように見えました。また、近くにウミアイサも見ることができました。

稲村優一

最強寒波が列島を襲い、1月26日に船橋アメダスで氷点下5.2度を記録しました。気温の変動が大きく、氷はよく張りましたが、積雪の無い冬でした。

動画ファイルを、学校へお送りします



自然博物館では、教育普及用のオリジナル動画の制作を進めています。自然博物館のwebサイトからYouTubeでご覧いただくこともできますが、授業や教材研究などで用いるには画質に難があります。古いものは低画質ですが、ハイビジョン画質の動画ファイル（MP4）もあります。それらを学校に直接提供することが可能です。動画は、博物館と学校、双方のセキュリティの点から、DVDディスクでのご提供となります。

○ 展示、教育普及用動画

博物館の展示室や学校での出張授業の際に使う想定で作ったものです。たとえば、つぎのようなタイトルがあります（ほかにもありますのでお問い合わせください）。

- ・「ノコギリガザミのお食事」（低画質）・「ホオジロの巣立ちに遭遇」（低画質）
- ・「江戸川放水路のトビハゼ」（ハイビジョン画質）

○ 長田谷津（大町公園内）動画スケッチ

動植物園に隣接する大町公園「自然観察園」の毎月の記録です。景観、動植物、湧き水など、四季折々の様子を記録しています。画質はすべてハイビジョンで、調べ学習で繰り返し再生したりノートに書き写すことを想定して、解説は字幕です。

2020年9月分からあります。

○ センサーカメラの記録

自然観察園に設置しているセンサーカメラが撮影した哺乳類と鳥類の動画を編集したものです。画質はすべてハイビジョンで、解説は文字画面です。ひと月ないし数か月単位でまとめられています。ノウサギやオオタカなど、自分たちでは観察できない生き物の様子が写っています。また、タヌキやフクロウなどについては、それぞれ短くまとめたものもあります（字幕解説なし）。

＜行事のご案内＞

長田谷津は、
大町公園の自然観察園のもともとの呼び名です。

○長田谷津散策会

（申し込み不要・荒天中止）

季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前 午前10時

解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

○湿地の環境整備をお手伝いして

くださいませんか

（要問合せ・荒天中止）

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。

たとえば……湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、
水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合戸同じ場所で 午前12時

初参加の方は・・・

お電話で博物館までお問合せください。

湿地の中に入る作業もありますので作業内容や
身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会	湿地環境整備
4月	9日 日曜日	23日 日曜日
5月	14日 日曜日	28日 日曜日
6月	11日 日曜日	25日 日曜日
7月	9日 日曜日	おやすみ
8月	13日 日曜日	おやすみ
9月	10日 日曜日	24日 日曜日
10月	15日 日曜日	29日 日曜日
11月	12日 日曜日	26日 日曜日
12月	10日 日曜日	24日 日曜日
1月	14日 日曜日	28日 日曜日
2月	11日 日曜日	25日 日曜日
3月	10日 日曜日	24日 日曜日

第36巻 第1号（通巻第205号）

令和5年4月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館

（市川市教育委員会生涯学習部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477